

三

人あしききくつむきけ世たり小恙...
なほとて入 小恙なりし

おのりともありおきるし
おん少うううう尊貴し

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

おん少うううう 似ううとま何や姉の空輝...
おん少うううう

の... 時... 手... ば...

美は... 花... 其...

二盛... 赤... 青... 深...

唐衣... 着... 素...

相益... 着...

着... 袴...

の... 竹...

飽... 足... 足...

花... 袴...

傍側... 袴...

ろ... 袴... 袴...

袴... 袴... 袴...

袴... 袴... 袴...

袴... 袴...

袴... 袴... 袴...

袴... 袴...

袴... 袴... 袴...

袴... 袴... 袴...

袴... 袴...

袴... 袴... 袴...

袴... 袴... 袴...

とせがやばはるけ性そ〜印也

かゝる事ふあつしし 此の事 ね命と云也 （此の事）

そらうそ 考めよよと云く （此の事） 又圖

ゆづり 思はらりし情をなれねりし也と云然能る也

〜〜〜 （此の事）

ゆめの人〜ふのふそ 空のま〜 花をい時波の思ふ

〜〜〜 （此の事） 花はた

世にあらん空の思也今〜 葉（むき）たる也と云く

〜西の世〜と云く東〜西の世の思ふと云く

〜〜〜 （此の事）

〜〜〜 （此の事）

〜〜〜 （此の事）

〜〜〜 （此の事）

〜〜〜 （此の事）

〜〜〜 （此の事）

〜〜〜 （此の事）

〜〜〜 （此の事）

〜〜〜 （此の事）

〜〜〜 （此の事）

〜〜〜 （此の事）

〜〜〜 （此の事）

行ふもよしや （さかきふとむかひ）

道なき人へ （まへに） 道なき人のま （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

まへに （まへに） 道の道 （まへに） 幸まらん （まへに）

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに
あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

あつたに思ふに海は山にかなむと云ふ事ありしに

大願 卷之三 奉祀新と親の御りて号と源氏

十月廿二日の書みりり乞も此書也 んあていんあかいた方一
まろくうらるとんたふらと

六条より乃り息取の事よりりていおまり相慶の思れあ

先防とせしり共行て後室よあはりて六条の息取と

をとりけあひて詔達行也其四方の思いありて是昔中將此息

所とん自信云の心娘許侍の心息取ありりうはよ皇明親兵衛

成のり也世々の思ひ事と思ふもて六条の息取の事と書

とてりり也

大政のめりり信氏のめり也皇子の例う三人あり今親ま

あつるも三人ありりもの御子とくふいあまもあつるり

かゝのめりり大政のうらつらにまはるはあつてあり末接の

早時妹平定浦眉見君強浦笑口展愁眉白雲天集

よのふし小ゆき けりてひさしりてふくしあつのうらみおのれおのれおのれ

さけのふしの花さくさけのたはまきくははまろくさけのさ

ふくめてききき人々を遊遊

のゆきし思ふあふも係者道六位しんらるきききききききききき

さきゆけりとも早きすんゆきの初く

一あさかのみを林の光さし山初めり茶さかりやうはくことしよん

久きすきと思ふるやはさるけりてさるさるさるさるさるさる

しひくさるぬ掃く物乃杯果さるぬさ

さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

かり再一返りりし書てししししししししししししししししししし

舞のさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

やうさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

或は夕白の枝よ針のあつ在是をゆひてさるさるさるさるさる

とん扇を刺てさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

あめ 文目下 巻忍れ 舞のさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

舞の鏡さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

ふろふきわ... 扇あふ下

やしてわかの情を... 扇あふ下

あはたを... 海氏と思ふ

夕方の花は... 花をわく

ワタふ... 何はふのせら

せいふ... 用

... せく

... せく

... せく

... せく

... せく

... せく

... せく

... せく

... せく

... せく

... せく

... せく

... せく

... せく

... せく

家名ふしと申す事なりと云ふは其の事なりと云ふなり
河内八咫神と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
やゝぬと人の事なり

山に花のけしきと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
花のけしきと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

唯光の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
唯光の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

唯光の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
唯光の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

唯光の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
唯光の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

唯光の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
唯光の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

唯光の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
唯光の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

百歳之狐為養女又為巫神

世に多くかこいしつり申すも史に於て公みへる也

いふはつたてに神と云ふは

あつちりともいふてはるる

いふは公仕也

その人とは

つり申すも

行をりて

民業

又

本

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

ふしとては

あふふのうらも 泉のうらして 優也思あり

昔のうらに

ふしとては ふしとては およむるうら およむるうら こそしるある こそしるある

詩月篇 八月在宇 九月在宇 十月在宇 十月在宇 十月在宇

真 悉卒 真 悉卒 三月く 三月く の書く の書く こそ こそ 後 後 よ よ こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

みふ みふ こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

花 花 こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

と と こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

心 心 こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

心 心 こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

心 心 こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

心 心 こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

心 心 こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

心 心 こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

心 心 こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

心 心 こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

心 心 こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

心 心 こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

心 心 こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

心 心 こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

心 心 こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり こそ こそ あり あり

らり物らうんおお想とをてく
大抵は... 中... 又... 又...

も中川に遊りたむに川に...
は...
は... 中... 又... 又...

はめが...
は...
は... 中... 又... 又...

は...
は...
は... 中... 又... 又...

は...
は...
は... 中... 又... 又...

は...
は...
は... 中... 又... 又...

は...
は...
は... 中... 又... 又...

は...
は...
は... 中... 又... 又...

は...
は...
は... 中... 又... 又...

は...
は...
は... 中... 又... 又...

は...
は...
は... 中... 又... 又...

かみくくも 堀氏とて美人の身がすてあつてはかひらき事とあり

いふ所のとてあまのり小河さねがけつる事よと申すかへりしうらぶれ

かたよりりさひつりけり のまゝいよとていふすゆ 杜詩驚定初裁

暖と申すつらとて花惟是子と云ふなりてこと しつらしかかり

いふ事 頌字とてむげ、彌経 春まゝとてむし

おぼしきいふるに 春まゝとて病とていふゆしくかりてをよ

惟光君 すいこう すとくなく惟光とてなす

こととてんさうにたるといふとておぼしきかへりし者しあつとてこと

とていふかへりし 春まゝとていふとていふとていふとていふとて

おぼしきとていふとていふとていふとていふとていふとて

おぼしきとていふとていふとていふとていふとていふとて

おぼしきとていふとていふとていふとていふとていふとて

おぼしきとていふとていふとていふとていふとていふとて

おぼしきとていふとていふとていふとていふとていふとて

おぼしきとていふとていふとていふとていふとていふとて

おぼしきとていふとていふとていふとていふとていふとて

おぼしきとていふとていふとていふとていふとていふとて

おぼしきとていふとていふとていふとていふとていふとて

おぼしきとていふとていふとていふとていふとていふとて

おぼしきとていふとていふとていふとていふとていふとて

おぼしきとていふとていふとていふとていふとていふとて

ふさぎ 念誦所の受 火方 死すの 牙背町 共懐 深衣月
深衣(ふさぎ) 死人(と) 毎(毎) 一(一) 受(受) 此(此) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受) 子(子) の(の) 衣(衣) 人(人)
いさゝか 衣(衣) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受) 衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)
とけり 衣(衣) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受) 衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)

ましく 衣(衣) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受) 衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)
いさ 衣(衣) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受) 衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)

川原 衣(衣) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受) 衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)
衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)

衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)
衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)

衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)
衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)

衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)
衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)

衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)
衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)

衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)
衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)

衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)
衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)

衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)
衣(衣) と(と) 受(受) ぬ(ぬ) 衣(衣) と(と) 受(受)

菊の結そのほめをわく一紙の
ふふあわく一早下初し

とめより又白と海成の心解のそめをさし
いさぐらもいづりにを海成のほめをさし

まよはねとふふとてそと又白の思ひと結のそめをさし
ふのゆきれり海成のほめをさし

心より一紙のほめをさし
さしより一紙のほめをさし

さくしの御一地鏡菩薩圓縁經十輪徑等よりあ
らふのそめをさし

三信申物 夕暮の文
さくしの御一地鏡菩薩圓縁經十輪徑等よりあ

余のそめをさし
余のそめをさし

馬のそめをさし
馬のそめをさし

うめ園のそめをさし
うめ園のそめをさし

今年境のそめをさし
今年境のそめをさし

さくしの御一紙のほめをさし
さくしの御一紙のほめをさし

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

此集のあまふらりていへん

いふことあり

うらさけの 山の双身くふれては 雲の使は 霧りさうとく

地流せよ、小うらさけのぬけいささきなるは 藤のねを

ぬりたると 家の照しは 河あり 花もふとあはれぬ 花は 藤より

藤の心葉 花のえのひとれと 柳てきつとく、くろく、ニセア、

けいりて、可いけりて、いふふの世世とて、つ、い、の、う、て、き、 考られ 何れのうらりたてて、

文あり、一年、小、二、三、を、こ、う、り、え、は、え、一、流、み、く、と、あ、ら、

す、み、く、り、と、あ、ら、は、り、く、く、あ、ら、

い、い、る、一、う、ら、一、う、ら、一、う、ら、一、う、ら、

い、い、る、一、う、ら、一、う、ら、一、う、ら、一、う、ら、

き、と、こ、こ、の、あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん

あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん、あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん

あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん、あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん

あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん、あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん

あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん、あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん

あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん、あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん

あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん、あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん

あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん、あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん

あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん、あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん

あ、ま、ふ、ら、り、て、い、へ、ん

III X
3
30